

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月1日

サラは言った。「神はわたしに笑いをお与えになった。聞く者は皆、わたしと笑い(イサク)を共にしてくれるでしょう。」-創世記21:6

神は不可能を完全に支配される者として現れ、サラの笑いは歓喜の驚きとなりました。その以前に笑ったのは、アブラハムでした(17章17節)。しかし彼の笑いは不信感の笑いでした。ただ、それは神に向けられたものではなく、身を低くして服すべきそのお方自身に対するものではなく、自分自身に向けたものでした。それは神を侮るものではなく、完全に不可能な事柄に対する感覚だったのです。

過去の彼の信仰はどこにあったのでしょうか？それは真の信仰であったかもしれませんが、なお、ある種の「現実主義」、すなわち自分を頼りとするたいまつが混入していました(訳注:イザヤ書50章11節参照)。それは、あえて言えば、神・プラス・アブラハムの信仰でした。そして、今や、ついに「アブラハム」の寄与分は完全に終焉を迎えたのです。信じるべきは神御自身以外に残されていないのです。ここに至って、彼の信仰は新しい性質を帯びました。いったい好ましい状況は信仰に役立つことはなく、むしろしばしば信仰を阻害します。状況が安楽な時は信仰は困難なのです。状況が困難であれば信仰は容易になります。ついに状況が不可能な段階に陥るならば、荒涼たる絶望からの信仰は、ただ神のみを頼りとしつつ、ついには神の約束をしてあの歓びの驚きへと実現させるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月2日

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。
-2コリント13:13

愛、神の心の深くにある愛こそが、すべての霊的祝福の源です。イエス・キリストにあって現された恵みが、その祝福を私たちが味わえるものとしませう。聖霊と共なる交わりを通して、私たちはその祝福を自分のものとなし得ませう。神の心の深くにあったものを、御子が私たちのために成就され、今やそれを聖霊が私たちにもたらして下さるのです。それゆえに、私たちがキリストにあって所有しているものを新たに見出すとき、神が私たちのために備えられた方法でそれを実体化して下さることを期待せまひませう。御霊のうちに歩みませう。あらゆる事柄において神に従いませう。それにより神が私たちのためになさりたいことを成就される扉を大きく開くことになるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月3日

彼らは内庭の門にはいるときには、亜麻布の服を着なければならない。内庭の門、および神殿の中で務めをするときは、・・・汗の出るような物を身に着けてはならない。-エゼキエル 44:17f

この命令は驚くべきものです。しかし説明は納得し得るものです。この目に見える神殿において奉仕する者は、毛織を着てはならず、亜麻布を身に着ける必要があります。なぜなら、未来における奉仕では、汗を催すような奉仕は神によって受け入れられることがないからです。これは何を教えるのでしょうか？ここの象徴は、私の考えでは、創世記3章、人の墮落へと戻ります。その罪の故に地に呪いがかけられ、人の努力がないと実を結ぶことができなくなりました。そこでアダムに神は語りました、「額に汗してあなたは食べねばならない」と。

今日における主の御業はそのようなものではありません。それは来たるべき時代の努力不要なあり方を先取りしているのです。あるいは、それは神の祝福によって特徴づけられている、と言えるでしょう。それがもたらされる時、肉的な努力は一切不要となるのです。私が霊的な仕事は神の仕事であると言うとき、私と共に耐えてください。すると神が働かれる時には、私たちが汗を流さねばならないような努力は一切不必要となるのです。

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月4日

ダビデは主の御顔を求めた求めた。-2サムエル21:1

時に、祈りに相当のエネルギーを注いでも、なお神からの答えが得られないようなことがあります。しかし、私たちはその理由をほとんど追及しません！神の御心に調和しない祈りがどうして答えを得ることができましょう？すべての祈りにおいて鍵を見出す必要があるのです。この章に記されている長引く飢饉に対して、ダビデはその鍵を求めたのです。

彼は単に神に対して、「この飢饉はもう3年も続いています。今こそ私たちを憐れみ、この年は豊かな収穫を得ることができるようにして下さい！」と叫びませんでした。そうではなく、彼は神の御顔を求めたのです。このことについて神は、以前に、ダビデに何かを語られていたのでしょうか？この求めに対して、神はただちに答えを与えられ、それと共に答えを得る祈りの鍵をも授けたのです。サウルはギベオン人を殺すに際して、彼らを生かしておくようにとのイスラエルに対する神の命令を守りませんでした。確かに、彼は神に対する熱心さによって行ったのですが、罪を犯しました。神は峻厳なる戒めを破ることを認められません。このように何かが必要があるのです。「この後、神はこの国の祈りにこたえられた」と14節にはあります。ダビデは鍵を見出していたのです。

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月5日

神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。-ヘブル11:6

真の信仰には三つの事実がその基礎となります。すなわち、神には可能であること（マタイ9:28）、神はなして下さること（マタイ8:2）、そして、この引用聖句のとおり、**神はある方であること**、です。ここで注意してほしいのですが、この最後の点は神が存在する・しないとかが曖昧なことを意味するものではありません。私が意味するのは、**神はある方であること**、すなわち、生きておられる方、今この時に、活動される方であることです。

今、あなたが罪人に対してキリストを紹介している場面を想像してください。あなたが彼と共に祈り、また彼もまた祈るならば、彼がどこにいる者であるかと質問したくなるでしょう。もし彼が、神は自分を救うことができるお方であると告白したならば、あなたは満足できるでしょうか？さらに、彼が先に進んで、神は自分を救うことを願っていると告白したならば、それで十分でしょうか？違います、神が自分を救ってくださった、神は私の救い主である、との確信を彼が表現するまでは、あなたは満足することはできないでしょう。私たちは「神には可能である」とか「神は願われる」とかの告白にとどまり、「神はある方」にたどり着くことがなければ、けっしてどこにも行けないのです。神の能力や憐れみは、それ自体では単に希望を私たちの内に起こさせるだけです。信仰は神の現在の活動に安息することによるのです。「私は・・・であり、私は・・・を得ています。なぜなら神はある方ですから！」と告白するに至るまでは、自分に信仰があると宣言することできないことなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月6日

悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。－エペソ6:11

ここにある「立ち向かう」の単語は「あなたの土台を保持する」という意味です。それは現代的表現における戦線を進めること、すなわち外国の領地に入り込んで征服し、服従させる意味ではありません。神はそのようなことを命じられません。「立ち向かう」とは敵によって占拠された地は、実際には神のものであること、また、したがって私たちのものであることを意味します。サタンの国に攻め込まれたのは主イエス御自身であり、死と復活の全能なる勝利によってそれを得たのです。今日、私たちは主が得られたその勝利を守りかつ確固たるものにすべく戦うのです。これがここにリストされた武具のほとんどが防具であることの原因でしょう。なぜなら勝利は主のものです。私たちはその勝利の上に新たに足台を設けるべく戦うのではありません。私たちはただその勝利を、あらゆる挑戦者に抗して、確実に保持するために戦うのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月7日

しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。-ローマ8:37

キリストにあって私たちはすでに勝利者です。このことが明らかでなければ、勝利を求める祈りも、賛美と共に宣言されなければ、私たちは私たちの基本的立場から追われて敗北を宣告されるだけになるでしょう。私に質問させてください。あなたは敗北の経験をしてきているでしょうか？ある点においては自分は十分に強い者であって、勝利を得ることができる并希望しているだけでしょうか？そうであるならば、あなたに対する私の祈りは、エペソの読者たちに対する使徒パウロの祈りを超えるものではありません。あなたの目を開き、あなたがすでにキリストと共に、「すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、…すべての名の上に高く置かれた」御座に座していることを知らしめるのは神御自身です(1:20以降)。あなたの周囲の困難は変わらないかもしれません。吠え猛る獅子が依然として歩き回っているかもしれません。しかし、あなたはそれらに打ち勝とうと願う必要は、もはやないのです。キリストにあるあなたはその領域においてすでに勝利者なのでから。

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月8日

王の娘は奥にいて栄華を窮め、その衣には黄金が織り合わされている。-詩篇45:13

花嫁は、巧みにまた忍耐をもって「刺繍された」結婚衣装をまとい、王の御前に導き出されようとしています。その衣装は、明らかに、賜物として与えられたものですが、しかし、花嫁の衣装は単に黄金なのではなく、いわば、神から純粹に溢れ出たものです。それは「黄金が織り合されている」のです。それは、金の刺繍糸が、織り地の布に忍耐強く刺繍され、また織り込まれたものです。それはキリストの栄光が現れるために、御霊がカルバリの十字架の実際を、彼女の経験の中に、絶えず適用されたことを意味するのではないのでしょうか？ここには彼女の意志の同意による神聖な御業を見ることができるのです。かくして小羊の妻は「その用意ができた」のです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月9日

主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟りである。-箴言9:10

愚かさとは知恵？その問題の鍵はぐずぐずと先延ばしするか、すぐに従うかにかかっています。この中には子供持つ親もおられるでしょう。子供に何かを命じるとき、その試みに際して、子供たちの反応はなんと異なることでしょうか！ある子はただちに従いますが、ある子はぐずぐずしつつそのうちに対応する必要がなくなると考えるのです。そのような場合、あなたの弱さによってその子に逃げ道を与えてしまうならば、ぐずっているうちにあたかも何もする必要がなくなることにより、先延ばしした子が賢いかのように見えます。なぜなら何もする必要がなくなったからです。しかしあなたがあくまでも命令を堅持し、それに従うことを求めるなら、問題に直面してすぐに従う子がより賢い子とされるでしょう。神の意志については明確にしてください。神の言葉が割り引かれるならば、適当に聞き流し、あえてその意味するところを回避するまでもないでしょう。もし神が変わることのない方であり、変わることのない意志を持たれる方であるならば、賢くありなさい、今、従いなさい、そして時を贖いなさい。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月10日

みな心を合わせ、祈りに専念していた。-使徒1:14

神の御心は地上においてどのようにしてなされるのでしょうか？ただ御自身の御心に立つ者たちを得ることによってです。現代の厳粛な状況において、私たちの一人ひとりが教会は天の出力点であること、すなわち天の力が流れ出るチャンネルであること、そしてこれは私たちのなし得る務めであることを覚えることによるのです。神はご自身がなさりたいことを示されます。私たちは御前に立ちまた求めます。すると神が天から御業をなさるのです。これが真の祈りであり、私たちの祈りの集会において見られるべき務めの表現なのです。他にもない、ここ上海にある教会がこの祈りの務めを見損なうのであれば、神が私たちを赦して下さるように！そのことなしでは、すべての事は虚しく、神はご自身の器を得ることができないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月11日

*私はあなたの仰せの道を走ります。あなたが、私の心を広くしてくださるからです。-詩篇
119:32*

今日、私たちの間におけるもろもろ病理は、私たちが単なる客観的教義に同意するに過ぎないことから生まれます。私たちは御言葉に関して外側の知的な光を追及しますが、その内なる適用については求めないのです。聖書には知的に言えば理解できないことが多々あります。そして私たちにとっての「光」とは、その理解の困難さを解くことだと思っているのです。多くの人々にとって、その教義が保守的かつオーソドックスに見ればそれで満足を覚えたり、知的な同意や不同意を示すのです。この点において根本主義者は自分が近代主義者(リベラル)よりも優れているとみなすのです。しかし私たちは次の事を理解する必要があります: 私たちは御子に関わる内なる真の理解を得た時に初めて、神の目にかなう霊的な成長をすることができるのであり、それ以外にはあり得ません。私たちは完全に義とされています。しかし、もし御子のいのちと生き方を得ることがなければ、私たちは最高の本質を得損なうのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月12日

自分の着物を洗って、いのちの木の实を食べる権利を与えられ、門を通過して都にはいれるようになる者は、幸いである。-黙示録22:14

アダムが人類に罪をもたらしたのは、殺人を犯すことによってではありませんでした。殺人はもっと後のことです。アダムは自由意志を用いて二つの木の選択を迫られました。ひとつはいのちの木であり、もうひとつの木は彼に自分自身で善悪を判断する能力を付与するものでした。彼自身の意図的行動により、後者の木に目を向け、それを選び取った結果、神から離れて自分自身で歩む能力を獲得するまでに自分の魂を肥大化させました。そこで神はご自身の目的を宇宙で成就するために一群の人々を選び、ご自身の栄光を担保されるのです。彼らのいのちは、すなわちその呼吸そのものは、まさに神にのみ依存しているのです。かくして神は彼らに対して、「いのちの木」となられましょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月13日

だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』—マタイ6:
9

私たちの父よ！神の民が互いに支え合うことは、何か快適な思想ではありません。それは彼らの生き生きとした実際生活の要素です。私たちは互いの交わりなくして生きることにはできません。神は「おのおのに分け与えてくださった信仰の量り」（ローマ12:3）に従って、一人ひとりを扱われることは事実ですが、人は単独ではそれを完全に発揮することはできないことは、その文脈から分かります。キリストの身の丈に至り、その栄光を輝かすためには御体が必要です。このゆえに、祈りのおける交わりがきわめて重要なのです。自分自身で主に信頼することは大変けっこうですが、それだけでは十分ではありません。他の肢体と共に主に信頼する必要があるのです。キリストにある兄弟とのひとつを基礎にして祈ることを学ぶ必要があります。そのような交わりにあってこそ、私たちは神の御旨を十分に祈り尽くすことができるのです。私は主の助けが必要であるゆえに、御体の助けを必要とするのです。なぜなら主のいのちは御体のいのちであるからです。

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月14日

イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」-ヨハネ6:10

私たちの現在のクリスチャン生活は、来たるべき天的な宴会の前味わいです。なぜなら、神は私たちを、全能の御力によりはるかに高い天に座しておられる「キリストと共に天のところに座らせて下さった」のですから（エペソ1:20;2:6）。これは救いの御業とは私たちの何かによるものではなく、私たちのために神がなされたことを意味しています。神は私たちに安息の場を与えてくださるのです。神は御子の完成された御業をもたらし、私たちに賜物として下さり、そして言われるのです、「座りなさい」と。私は、神の救いの提供を説くために、私たちを大いなる宴会に招いて下さるといふ喩えほど明快な表現は他にないと思います：「来なさい、すでにすべての準備は整っています」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月15日

そうすればたましいに安らぎが来ます。-マタイ11:29

与えられる平安があります：「わたしはあなたがたに平安を与える」と。しかし、もう一方で自ら見出すべき平安があります。最初の平安は単純に神の元に来るときに得られるものであり、それは神からのいのちの賜物です。これは単にいわゆる伝道の福音的メッセージを信じる以上のことです。それは疲れ果て重荷を負った罪人として、主イエス・キリスト御自身の身元に来て個人的な交わりに入ることによります。そのような交わりは必ず安息をもたらします。このような基本的な賜物をご自身の子供たちに賜った神に感謝します！

しかし、事ここに及んで、私たちは何かそれ以上のものを見出すべき臨界点に達するのです。私たちは主から学ぶ必要があります-それは主御自身を知る知識の成長において見出すことのできる満足を獲得するためです。何よりもまず、私たちは主御自身の謙遜と心の遜りを学ぶ必要があります。それにより、主が言われるとおりに、私たちは安息を見出すことができるのです。なぜなら、この安息は賜物ではなく、弟子すなわち学者が味わうべきものだからです。しかも学びには時間を要します。しかしそれは限りない報酬をもたらすのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月16日

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。-マタイ11:29

主と共に轡を共にするとはどういうことでしょうか？それは意志的な、心を合わせて、主と共に神聖な計画において協力することです。もちろん轡は牡牛を制限します。自分勝手にあちこちへとさ迷うことはできません。それはまっすぐに前に向かって歩ませるものです。しかしながら、そのようにして御業は成し遂げられるのです。ここで自分自身を何か偉大な者と考え、自分自身の野心の達成を目論むことなく、むしろへりくだる必要があります。神が望まれるところであれば、どこへでも、たとえ地の底であろうとも、喜んで行くことです。

マタイ福音書のこの章において、主は公の務めにおいて明らかにフラストレーションを感じてられたことを見てとれます。ただ幼い者たちのみが理解し得たであろうし、それに応答することができたであろう、と。私たちならば、「何という威光の失墜であろう！」と叫んだことでしょう。しかし、そうではなかったのです。主のお言葉は、「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。・・・そうです、父よ。これがみこころにかなったこと」でした。主は何かを目論んだわけではありません。主は父が願われることを完全に遂行しようとされたのです。ここで私たちが問われます。私たちは主の制限の中に留まり、主と共に歩むのだろうか、と。なぜなら、真の深い安息はこの「たましいの安らぎ」に入ることだからです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月17日

あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました。・・・御霊と御力の現われでした。-1コリント2:3-4

聖書は二種類のクリスチャン経験を見せています。共に正当なものであり、必要なものです。ひとつは次のようなきわめて力に満ちた、ほとんど誇り高ぶるような経験です：「神は私たちを勝利の凱旋へと導かれる」、「私にとって生きることはキリストである」、そして「私は私を強めて下さる方によって何事もなし得る」と。しかし、一方で、そのままに同じ人が、同様に真理であるのですが、次のように告白するのは：「私は死をも覚悟しました」、「キリスト・イエスは罪人を救うために来られましたが、私は罪人の頭です」、そして「私たちもまた主にあって弱いのです」と。後者のあり方はまったく別の種類のクリスチャンであるかのようです。不完全で、脆く、恐れつつ、確信にまったく満たされていません。しかし神の子の現実的生き方として、これらの二つの面が同時に存在するのです。私たちは明らかに二番目のあり方は排除して、最初のあり方のみを求めることでしよう。しかし、その両者を知ることはイエスラエルの神である方を知る事なのです。そしてまたヤコブの神を知る事でもあるのです！

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月18日

ただ、主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。-民数記14:9

キリストにある嗣業を私たちが完全に享受することを妨げるものは、あたかもカナン人のように巨大なものであるかもしれませんが。しかし神はあえてそれらのものを私たちの成長のために用いられるのです。信仰はそれらのものをえじきと見ます。そのことを知りさえすれば、私たちは栄え、また困難をもものともせず前進できるのです。しかし逆もまた言えます。10人の斥候は「私たちが行き巡って探った地は、その住民を食い尽くす地だ」と報告しました(民数記13:32)。神への信仰を放棄し、その問題から目をそむけるならば、あなたの成長のために用意されたはずのそれらの事柄によって飲み尽くされてしまう立場に自分を置くこととなります。多くの者たちが困難で葛藤しています。その周囲を回って安易な解決策を模索しているのです。その問題に真っ向から立ち向かうことを避けて、それらを棚上げにしているのです。ヨルダン川を渡る困難とその先にある危険を直視していません。このように私たちは問題を回避するのですが、その代わりに飢えてしまうのです！

食べ物私たちがいのちですが、それは霊的な休暇に得られるものではありません。主の真実を証する機会を逃しませんように。敵は私たちに困惑させるでしょうが、しかしそれにより私たちは豊かに養われ、また霊的な成長をすることができます。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月19日

陶器師は、粘土で制作中の器を自分の手でこわし、再びそれを陶器師自身の気に入ったほかの器に作り替えた。-エレミヤ18:4

陶器師の当初のデザインは土の中の好ましくない要素により損なわれてしまいました。そうです、損なわれたのです。しかし破壊されたわけではありません。なぜなら彼はそれを作り直しているからです。それは今もなお神がなされている御業であり、私たちはその御手の調整に与っているのです。ある領域で神をないがしろにしてしまったかもしれません。その際、神がその誤った道においてもなお共にいて下さると勝手に思い込みつつ、神が拒否されていることにしがみつくと愚かです。

神は何か偶然に御心を変えることがありますか？それとも私が「別の器」とされるべきなのでしょう？もしそうであるならば、最初の器になるべくもがくことは死を意味します。「わたしにはあなたをこの器に作りあげる能力はないのだろうか？」と主は言われます。私たちは神の御心を弄ぶことはできません。神は私たちの慈愛の父であるとは言え、ご自身の手法にあっては峻厳なお方なのです。私たちの態度はこうあるべきです：「私を身元に近づけ、あなたを恐れさせてください。そして常にあなたの最上に与れますように！」。私はペテロの奨励によって大いなる励ましを受けるのです、「ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くして下さるためです」(1ペテロ 5:6)。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月20日

先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。-ルカ5:5

時に主のための業において主が保証してくださる結果が得られず、努力が虚しく終わることがあります。しかし、私たちがうろたえるためにそれが見えないのです。「なんとという虚しい骨折り損だろう、一晩中働いて何も得られなかった、どうせ祝福などないのだ！」と私たちは呟きます。しかしここでこのように考えても益はありません。事実としては単に神が祝福を控えておられることに直面しているのです。人間的論理では原因から結果を導きます。しかし私たちの考え方は神聖な御心の領域では不適切です。その領域においては神が原因であり、しかも神だけなのです。

「でも、お言葉ですから網を下ろしてみましょー」、これは神の奉仕においては意味のある信仰です。私たちの砂漠のような状態において、私たちが祝福してくださる神に信頼することです。私たちがただ神にのみ希望を置くのであれば、私たちの未来のすべての過程において祝福を見ることができるようでしょう。私たちの人生にとどまる主の愛顧は、50人の救いを意味し、また100人の主に対する献身者をも意味するのです。神の祝福は留まることのない結果をもたらします。超自然的な事を期待しましょー。神に対して奇跡を仰ぎ求めましょー。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月21日

わたしは自分が信頼している方を知っており-1テモテ1:12

キリストにある豊かないのちに与るようになった数多くの人々に、いったいどのようにその経験に入ったのかを尋ねるならば、ある人はこう言い、別の人はああ言うことでしょう。それぞれの人は自分がその経験に入った特異的なあり方に強調点を置き、御言葉をその根拠とするのです。そして不幸なことに、多くのクリスチャンが自分の特異な経験と特別な御言葉をもって、他のクリスチャンと闘っているのです。問題の本質は、私たちは色々な様式でより豊かないのちの経験に入り、キリストをその中心に据えているとみなしているのですが、しばしば自分の経験や教義を互いに排他的なものとみなしてしまうのです。事實は、むしろ互いに相補的であるべきです。次の一点は確かに言えるでしょう。神の目にあって価値のある経験とは、主イエスのご人格とその御業の新しい意味を新鮮なあり方で見出すことによるのです。他に道はありません。これこそが安全なテストであり、重要なことなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月22日

信仰とは願っているものの実体化である-ヘブル11:1(Darby訳)

どのようにそれを「実体化」するのでしょうか？私たちは毎日の生活でいつもそれを行っているのです。この世にあって、これをするこゝとなしに生きることはできません。「実質」とは客観的対象であり、私たちの前に存在し、それは音や色のように具象的ではないかもしれません。「実体化」とは、私たちには聴いたり、見たりするためのある種の能力が備わっており、それによりその不明瞭な「存在」を、私にとって実際とすることを意味します。例えば、黄色はきわめて明確なものです。しかし目を閉じると、その実在性は私にとっては失われます。私にとっては無きが如きものとなります。それを実体化する私の視力により、黄色は私にとっての黄色となります。色が存在するというだけでなく、それを私の意識において現実とすることができるのです。視力という賜物はなんと偉大なものでしょう！

しかし音楽や色彩をはるかに超えて、キリストに「願うもの」は永遠であり、しかも現実なのです。そしてそれを実体化し得る能力を私は得ているのです。信仰、神の御子の信仰がその能力です。それは神聖な事柄を私の経験において実際とすることです。神の真実に安息することにより、信仰はまだ願うだけの見えない事柄を私にとって実体化するのである。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月23日

やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。-黙示録19:10

何が起きていたのでしょうか？ヨハネは理性を喪失して天使を礼拝しようとしていたのでしょうか？確かに理性を失っていたかもしれませんが、確かに言えることは心の中で忘我の状態にあったのです。頭の良い人々がおり、彼らは決して愚かなことはしません。しかしヨハネはそのような種類の者ではありませんでした。なぜなら彼は二度もヘマをしているからです(22章8節参照)。真理は、彼は良い心を持っていたのです。そして良い心は時として混乱し、ヘマをやらかすのです。彼の心は栄光の教会が「神の身許から地上に下る」光景に圧倒されていたのです。そしてその光景に驚嘆しつつ、自らの忍耐と困難の中にあって、あらゆる時代を通じての偉大なる神聖な傑作における天的な同労者とともにあったのです。彼の行動は確かに間違っていました。しかしそれは正しい姿勢から出たものであり、それは私たちも見習うべきことなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月24日

神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。-2コリント3:6

実際には拒絶的態度ではないとしても、正しさを追求するだけで、いのちの躍動や霊的要素にはほとんど無関心な人々と話しをすることは、私にとって疲れを覚えることです。いわゆる「宣教手段」などには、私はまったく関心がありません。実際、次のような神の子供たちに会うことはきわめて悲しいことなのです。彼らは生まれつきの人のエネルギーによって生きることが神にとっていかに好ましからざることであるかを意識せず、イエス・キリストの頭首権に服することがほとんどなく、ただ神のための奉仕に関して正しい方法に到達することだけに几帳面にも気を配るのです。神ご自身がご自分のワインのためにもっともふさわしくかつ熟するための新しい革袋を用意されたのです。革袋なしにワインを保有しても漏れてしまいましたが、ワインの入っていない革袋を得ることは損失であると言うよりも、死そのものに他ならないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月25日

わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、…もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。-ローマ6:6

あなたは何ゆえに主イエスは死なれたと信じていますか？その信仰の根拠は何でしょうか？主が死なれたと感じるからでしょうか？違います、あなたは決してそれを感じることはできないことでしょう。それは神の言葉がそう語っているので信じるだけです。主が十字架にかけられたとき、二人の強盗が同時に十字架につけられました。あなたはその事実を疑うことはないでしょう。なぜなら聖書に明確に書かれているからです。では、あなた自身の死についてはどうでしょうか？主と共なるあなたの磔刑は彼らのそれよりもっと密接な事実です。彼らは主と同時に十字架につけられましたが、それらは主のものとは異なる十字架でしたが、あなたは主のうちに置かれたゆえに、主が死なれた時、主とまさに同じ十字架につけられたのです。それはあなたの感覚によるものではありません。神がそう言われるのですから、十分なる確信をもってそれを知ることができるのです。キリストが死なれたことは事実です。ふたりの強盗が死んだことも事実です。そしてまたあなたが死んだことも事実なのです。あなたが嫌悪する自己は、キリストにあって十字架で死んだのです！それはあなたが「もはや罪の奴隷とならないため」なのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ (11月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月26日

*なぜ、何もしないで一日中ここに立っているのか・・・あなたたちもぶどう園に行きなさいーマタ
120:6f*

ここにある「何もしないで(idle)」と言う単語は、ギリシャ語で argos ですが、パウロが説く罪からの解放を実によく説明してくれるものです。なぜなら、この単語はローマ書 6 章 6 節にある十字架によって「罪の体が滅ぼされて」、正確には「無効とされて」あるいは「機能しない」と訳された単語の語根であるからです。罪(単数形の Sin)は、私たちの古い主人だったのですが、依然として存在しています。しかしキリストにあってその主人に仕えていた奴隷は十字架において死に渡され、罪から解かれて、その肢体は罪に対しては失業状態とされたのです。ギャンブラーの手は失業しました。詐欺師の舌もまた失業しました。そしてこれらの肢体は今や、「神に対する義の武器」として用いられるのです。これらの状況に置かれるためには、主の質問に次のように答える必要があります、「なぜなら誰も雇ってくれないからです」と。そして新たに、栄光の報酬をくださる主によって雇われる必要があるのです。「あなたたちもぶどう園に行きなさい。何でも必要な権利をわたしは与えます」。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月27日

かつて自分の五体を汚れと不法の奴隷として、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隷として献げて、聖なる生活を送りなさい。-ローマ6:19

かつてひとりのクリスチャンの兄弟が列車で旅をしているとき、その客車の中に三人のノンクリスチャンと同席していることに気がつきました。時間を持て余していた三人はカードゲームを始めようとしたのですが、ひとり足りなかつたので、その兄弟を招きました。「あなたがたを失望させてすみませんが、私の手は私のものではないのです」と彼は答えました。彼らは驚いて、啞然としつつ、「そりゃ、いったいどういうことか？」とたずね返しました。彼は「この両手は私の所有ではないのです」と答えつつ、その所有権がすでに移転していることを説明しました。「あなたの肢体を捧げなさい」とパウロは言います。それゆえにその兄弟は自分の肢体が完全に主に属するものであるとみなしたのです。これが実際的な聖別の意味です。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月28日

キリストの十字架がむなししいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。-1コリント1:17

私がまだ若かった頃、福音の真理をあますところなく、かつ誤解されることなく聴衆に伝えるために、いかにすべきかを熱心に追求していた時期があります。説教においても決して誤りをする事が無いように努めました。正直に告白しますと、それは霊的にはほとんど価値がないものでした。私はすぐに気がついたのですが、神は貧弱な者をご自身のメッセンジャーとして用いられるのです。神は私たちの完璧な解説を求められるのではなく、ご自身の御光を人に伝えるために、あえて断片を、つまりこのひとつの単語、あそこ一つの文を用いられるのです。神は完全な理解や誤りのない教えを求められません。かえって私たちがこのことで完全であろうとすること自体が、神の第一の目的に反して立ちふさがらば、神の障害となり得るのです。その第一の目的とは、死んだ魂にいのちをもたらし、飢え乾いた心に天のマナを供給することです。「わたしがあなたに話した言葉は霊であり、またいのちである」。

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月29日

兄上のお顔は、わたしには神の御顔のように見えます。-創世記33:10

この驚くべき発言は何を意味するのでしょうか？ヤコブは、かつて彼はヤボクの渡しで神の御顔を面と面で見ましたが、エサウとの再開をあたかも神の御顔を見ることになぞらえているのです！これは何かお世辞のようなものであり、かつてのそのずる賢い性質のヤコブがまだ何かを隠していることの兆候であるようにも見えるのです。あるいはまた彼がそれまでなしてきた家族や資産に対する周到な準備が時間の無駄であった、とする告白であるかのようにも見えるのです。エサウが彼を喜んで迎えたことは、解放の 때가、自分の賢い策略によるのではなく、神の主権により訪れたと認識したのかもしれませんが。しかしもうひとつの意味づけが可能です。そしてそれは普遍的な霊的事実です。すなわち私たちが何かしらの損害を与えた相手は、つねに私たちにとって、神の代理者であることを意味するのです。彼らと会うことは、あたかも神と会うことに等しいのです。それは裁きに直面することです。もしこの場合のように、私たちの心が神の前で遜っていたら、神に感謝することでしょう。それは憐れみと和解を意味します。「まず、兄弟と和解してから、わたしの元に来て、捧げ物を捧げなさい」。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ（11月）

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

11月30日

主よ、わたしはあなたの救いを待ち望む。－創世記49:18

創世記 49 章はヤコブを預言者として啓示しています。神の心を真に理解することにより、驚くべき未来の透視をなし得たのです。しかしこの節は、ちょうど真ん中に配置されていますが、預言ではありません。これはヤコブ自身の嘆きの言葉です。これらの託宣の中には喜びと善きことと共に、悲しみと罪の暗い予兆が見られるのです。ヤコブは道端の蛇としてのダンの暗い絵を描いた直後でした。そして、ここでは自分自身を明きらかにしました。目を天に向け、預言者としての自分自身を顕わにしました。説教することは容易なことです。しかし人が説教をしている間に、神が真に彼を得ているか否かは容易に分かるのです。かつてのヤコブであれば、ダンをいかに対処すべきかを考え始めたことでしょう。彼は常に人々を出し抜くことができました。しかし今は違うのです。今では神を知っていたのです。「主よ、わたしはあなたの救いを待ち望む」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想